

第 3 節 PTA 運動の主要課題

4. 日米関係者の相互交流

初期においては、日本の PTA 関係者が、お手本になったアメリカの PTA の実際を学ぶために渡米し、また、アメリカの PTA 関係者は日本の PTA 関係者に助言のために来日することが盛んであった。

昭和 25 年は、4 月に文部省の視学官 2 人が米 PTA 視察のために渡米し、7 月には米国全国 PTA 協議会長ジョーン・ヘイズ女史が我が国 PTA の視察・指導のために来日している。

昭和 26 年 9 月には、大都市の PTA 代表 5 名が米 PTA 視察のため渡米、昭和 28 年には我が国 PTA の調査・助言を目的に、全米 PTA 会誌編集顧問ウィリアムズ女史、アイオワ州 PTA 協議会長ファットランド女史が来日している。

さらに、PTA の国際 PTA の国際交流の絶好の機会となった第 1 回世界 PTA 会議(全 10 か国が参加)が昭和 28 年 4 月にマニラで開催されるに当たり、日本 PTA 全国協議会会長が参加している。

昭和 31 年には、協議会として初めて、米国への PTA 視察団を編成し、派遣を行った。

視察団は 4 月に PTA のアメリカ全国大会に出席し、5 月にはアメリカの各地の PTA の活動状況を見て回っている。